

保育計画成果報告書

法人名等	株式会社 ライフステージ大分
施設名	大道にじいろ保育園
報告者（役職）	中村 洋美（園長）
住所・連絡先	大分県大分市大道町3丁目2番8号
	☎ 097-511-3302
	E-mail omichi-nijil@jcom.zaq.ne.jp

○タイトル（保育計画）

子ども達が保育者と一緒に笑顔で楽しむ運動遊び

○主な助成備品

室内用システム遊具プレイロック・鉄棒・マット

1. 保育計画策定の目的

昨今の子どもの体力、運動能力は低下傾向にあると言われていています。この状況から、保育園としては何ができるだろうかと考えた時にまずは、運動能力が急速に発達する乳幼児期に「自分の体を積極的に使って遊べる子」になって欲しいという思いがありました。這う、支える、踏ん張る、昇る、降りる、跳ぶなど基本的な身体活動をしっかり行うことで、体感を鍛え、自分自身の体の動きをコントロールしていくのだと考えます。これから成長していくにあたり、さらに複雑かつ巧みな動きを習得していくためには、今のこの乳幼児期に運動機能を十分に使って身体発達の基礎を固めておくことが大事になると考えました。

また、友達と一緒に「同じことをしてみたい」「やってみたい」という意欲を育てながら、「できた!」という達成感、充実感を味わうこともできます。挑戦してできた時にはその子どもと保育者が目と目を合わせ一緒に喜ぶこと、「したい」という気持ちも大切に、これらをたくさん経験することで、自信や自己肯定感を高めていくことへと繋がっていくのだと思います。そして、さらに難しいことに挑戦してみようという気持ちも生まれてきます。

このように遊びを通して、身体機能を高め、子ども達の意欲を育ていけるように日常的に運動遊びを取り入れてきました。天候にとらわれず、室内でも安全に伸び伸びと体を動かして遊べる環境作り、運動遊びの充実を目的としました。

2. 具体的な実施内容

活動をする前には、約束事（友達を押さない・順番を守る等）を話してから始めるようにし、活動中も危ない時にはその都度声かけをしていきました。

活動時間も安全面と思いきり体を動かせるようにと考えて、0歳児と1,2歳児を分けて行うように工夫しました。

ソフトマット

0歳児はソフトマットにつかまり立ちをしたり、ハイハイで昇り降りしたり、立ったまま登ってみたり、怖くて座って下りる子もいました。一番高いところまで行くと、振り返って手を振る姿もありました。体全体を使って遊んでいる感じでした。

1歳児はマットの感触を楽しみながら、階段や坂を立ったままゆっくり慎重に昇り降りを楽しんでいました。時には坂や階段をうつ伏せで滑ってみたり、腕だけを使って上ったり、後ろ向きで挑戦したり次々と遊びが広がっていました。

2歳児は0,1歳児の様子を見て同じ動きを真似したり、スピードアップしたハイハイで昇り降りしたり、ジャンプしながらの昇り降りだったり、いろいろな動きが出てきました。不安定なマットに、顔は真剣な表情になっていました。

園内にあるマットと組み合わせて、サーキット場にして様々な動きが楽しめるようにしました。保育士と手をつないで歩いたり、ハイハイで挑戦したり、友達と追いかっこしながら進んだり、走って楽しむ子もいました。その中で、順番がきちんと守れるようになり、怖がっている友達に「〇〇だよ」「手をつなごう」と声をかける姿もありました。



大きいマット

年齢関係なくマットの上を裸足で歩いたり、ハイハイで渡ったり、ジャンプしてみたり、寝転がってゴロゴロすることで感触を楽しんでいました。急にでんぐり返しに挑戦する子もいました。安全面には十分注意して補助につくようにしました。

鉄棒

園庭もなく近くの公園にも鉄棒がない状況で、鉄棒に触れる機会もなかった子ども達です。初めて活動に取り入れた時は、「何?」「何するの?」「どうやって遊ぶの?」と目をキラキラさせて言っていました。

0歳児の月齢の高い子や1歳児の子は初め足がついた状態からスタートしていましたが、自分から足を上げてぶら下がるようになりました。「見て見て」という感じの表情でかなり得意げな様子でした。

2歳児は初めから上手にぶら下がり足も上げたり、保育士の補助を借りて「つばめ」の姿勢をとったり（写真）得意な子は「豚の丸焼き」（写真）もできていて、しっかり鉄棒を握ることができていました。



3. その成果と評価

0歳児はハイハイからつかまり立ちにつながったり、バランスを取りながら昇り降りができるようになったりと発達面での変化が多く見られました。

1, 2歳児は何より体を動かすことを楽しんでいました。「一緒にしよう」「これしてみよう」「順番だよ」等、友達との関わりの輪もさらに遊びを通して広がってきました。遊びを繰り返す中でルールを知ったり、一緒に片付けや準備をしようとしたりと運動面以外の成長を感じることもできました。これは園目標でもある「健やかに伸び伸びと育つ」にもつながるのではないかと思います。

改めて子ども達にとって運動遊びが苦手なものではなく、「楽しい遊び」になってきたと感じています。今回助成していただいて購入した遊具を活動に取り入れることで、室内遊びが充実し、思っていた動きより子ども達が作り出す動きもあって活動内容も広がりました。

4. 今後の課題と展望

室内活動が増々充実できるように、例えば鉄棒の高さを変える、技を増やす、体感を鍛える動きを工夫する等、子ども達の運動能力向上のためにも、保育に取り入れていきたいと思えます。繰り返し行うことで遊びがパターン化してしまいがちなので、保育士の技術・指導力も養っていきながら、活動内容を広げていけたらと考えています。

何よりも運動遊びが苦手ではなく、「楽しい遊び」「好きな遊び」に感じられるように今後も取り入れて、子ども達と一緒に楽しみながら健やかな身体の発達を援助していきたいと思えます。

以上